

国慶雙十節祝賀訪台

10月9日(火)から11日(木)の日程で、国慶雙十節祝賀のため、24人の議員団(団長:古屋圭司会長)を結成して訪台しました。9日は、台北市立中山女子高級中学(高校)にて日本語授業の参観と生徒との懇談、また日本から台湾に進出している企業が構成する台北市日本工商会との意見交換会、そして台湾日本関係協会邱会長主催の晩餐会。10日は、蔡英文総統主催の昼食会が、各国代表と併せての謁見と式典の後に、台湾総統府にて行なわれました。午後には、1911年の辛亥革命以降、中華民国建国の過程において戦没した英霊を祀る「忠烈祠」に哀悼の誠を捧げ、献花をいたしました。この他、外交部長主催による夕刻レセプション、台日関係協会張淑玲秘書長主催の晩餐会、蘇嘉全立法院長との対談および昼食会など、盛りだくさんの3日間となりました。

また、古屋会長は日本を代表して、蔡総統出席のもと11日に行われた、アジア太平洋地域の繁栄を目的とする国際会議「玉山フォーラム」に出席し、緊密な日台関係、日華懇の具体的な取組みについて基調講演を行いました。

蔡英文総統主催の昼食会は、他国の訪問団とは別に日華懇議員団にのみ設けられた特別な機会であり、限られた時間の中で、有益な意見交換がなされました。ここに、その発言概要について、メモとしてお知らせ申し上げます。

蔡英文総統スピーチ(日本語訳)

日華議員懇談会古屋会長を始め、衆参両院の諸先生方、日本台湾交流協会沼田代表、関係者各位の皆様、こんにちは。

最初に、古屋会長及び日華懇の諸先生方。この度、わざわざ台湾においてになり、私どもの国慶節に出席して下さったこと、心から歓迎の意を表します。

ご列席の衆参両院の諸先生方は、台湾の古き友人であり、長年にわたって熱心に各分野での交流活動に参加され、お互いの友情がより一層深まりました。

今年3月、古屋会長が就任して以来、日華懇が何度も決議文を発表し、台湾のWHAへの参加支持や航空会社の台湾名称変更反対、また台湾とエルサルバドルが断交した際には台湾を応援くださり、台日第三国での産業連携を模索したりするなど、そういった重要なご支援は、私どもに大きな温もりと力を貸して下さり、私は台湾国民を代表しまして、皆様方に感謝の意を申し上げます。

日華懇は日本の政界で大きな影響力を持っていらっしゃいます。安倍新内閣の中で、何名様かの閣僚が日華懇のメンバーです。本当に、おめでとうございます。

ここ一年来、米中貿易戦争等の衝撃によって、国際政治や経済情勢が激しく変化しつつあります。変局の中で、どうやって地域の平和と安定を維持していくかは、台湾が最も関心を払っている問題です。日本にとっても同じだと信じています。

中国の圧力に立ち向かい、我々はいたずらに対抗をエスカレートせず、しかしながら屈服もしません。変局の中で安定した役割を果たすことは、極めて困難なことではありますが、国家の指導者としての責任でもあります。

インド太平洋地域では、台湾が善意をもって私どもの能力と経験を貢献してまいりたい所存であります。私どもは日本とともに、民主主義の価値や国連の持続可能な開発目標(SDGs エスディーズ)を確実に推進した経験をそのほかの国々と分かち合いながら、交流を強化していきたいと望んでいます。

私も、変動する情勢のなかで、古屋会長と日華懇の諸先生方の力添えのもとで、台湾と日本との緊密な連携関係が維持でき、手と手を携えて地域で安定とした役割を果たすことができるよう強く期待しています。改めて、皆様方、この度のご来訪に歓迎の意を表します。どうもありがとうございました。

古屋圭司会長スピーチ(概要)

本日は、蔡総統主催の昼食会に日華懇訪台団をお招きいただき、貴重な昼の時間をいただき心から感謝します。昨年は、衆議院総選挙があり、残念ながら1名も参加できませんでしたが、今回はスタッフを含め約30名が参加しています。

我々は、先ほど蔡総統の演説を拝聴し、台湾としてのアイデンティティとスタビリティをしっかりと維持するための並々ならぬ決意を感じ取りました。日本と台湾の関係について、同じ民主主義という共通の価値観を有し、日本が台湾と連携し、国際社会においても台湾を応援していることに言及いただき感謝しています。また、お互いに災害の多い国として、困難な時に助け合う関係こそ真の絆で結ばれている旨言及いただきました。

我々日華懇は、WTO、TPP、エルサルバドルとの断交の際に、支援の形として決議を発表しました。これらは日本と台湾の信頼の形です。

昨日、我々は蔡総統の出身校である中山女子高級中学、高校を訪問し、日本語の授業を見学しました。授業では、文化の違いや多様性を踏まえた内容に及び、感銘を受けました。また、同高校の建物は、1937年に建設されたものが今も使用されており、日本統治時代の物品、特に教育勅語の保管されている金庫も保管されています。蔡英文総統のように、卒業生が内外で活躍されることを願っています。

日本と台湾の関係はしっかりとした信頼で結ばれていますが、課題もあります。信頼関係があれば必ず解決できると信じています。例えば食品の輸入規制に象徴されるような問題については、蔡総統がリーダーシップを発揮され、解決されるよう望みます。

台湾の更なる繁栄、日本と台湾の太い絆が維持されることを望むものです。

蔡英文総統答礼スピーチ(抄訳)

国慶の日に、日本側とだけ昼食をとることは雙十節の伝統であり、定番となりました。両国の友情は深く、絆は強くなると確信しています。

来年、この総統府は建立して100周年を迎えます。来年の雙十節では、国慶とともに総統府建設100年を祝いたく思います。

また、同じこの時間に同じ会場でお目にかかりましょう。

以上